

## 上越教育大学教育実習ルーブリック

項目	中項目	小項目	教育実地研究Ⅰ(1年生)	教育実地研究Ⅱ(2年生)	教育実地研究Ⅲ,Ⅳ(3,4年生)		
			到達目標	到達目標	教育実習でめざす姿		めざす教員像
					First stage	Second stage	Third stage
Ⅰ 教員として求められる使命感や責任感, 教育的愛情等に関する事項	1 使命感や責任感	1 主体性	主体的・積極的に観察参加実習に参加することができる。	主体的・積極的に, 教育実地研究Ⅱの授業に取り組むことができる。	主体的・積極的に, 教育実習に参加しようとする。	主体的・積極的に, 教育活動における役割と責任を果たそうとすることができる。	教員として時と場をわきまえ, 主体的・積極的に自己の職責を果たすことができる。
		2 教育課題への対応		教育実習で必要とされる基礎的な用語を説明できる。	教育実習期間中, 直面することが予想される教育課題に対して, 基礎的な知識を持つ。	教育実習において生じた教育課題に対して, 常に謙虚に学ぶ姿勢を持つことができる。	日々生起する教育課題に対して, 常に謙虚に学ぶ姿勢を持ち, その解決の見通しを持つことができる。
		3 社会と子供	各学校における教育課題を観察し, まとめることができる。	社会状況や時代の変化に伴って生じている新たな教育課題や子供の変化について, 興味・関心を持つ。	社会状況や時代の変化に伴って生じている新たな教育課題や子供の変化について学ぶとうする。	社会状況や時代の変化に伴って生じている新たな教育課題や子供の変化について, その要因を学ぶとうする。	社会状況や時代の変化に伴って生じている新たな教育課題や子供の変化について, その要因と対応策について学ぶとうする。
		4 自律	各学校において, 教員一人一人がどのように職責を果たしているかを観察し, まとめることができる。	教育実習に向けて, 自らを律し, 学校教育関係の法令等を学ぶ意義を理解している。	教育実習に関わる法令等を理解し, 日々の教育活動で実践しようとする。	教育実習に関わる法令等を理解し, 日々の教育活動で実践することができる。	法令等を理解・遵守し, 日々の教育活動において的確に実践することができる。
		5 安全配慮	各学校において, 子供の成長や安全, 健康をどのように考えているかを観察し, まとめることができる。	子供の生命・安全を第一に考え, 教育実践を行う意味を認識する。	子供の安全に配慮し, 環境を整備しようとする。	子供の安全, 健康に配慮し, 教員や環境を整備することができる。	子供の安全, 健康に配慮し, 常に教具や環境を整備することができる。
		6 内省	自らのめざす教師像をとらえ直すことができる。	自らの教職適性を再検討し, 適切な自己目標と自己課題を設定できる。	教育実習における自己課題を見いだし, 実習場面ごとに学ぶ視点を明確にしようとする。	教育実習における自己課題を問い直したり, 新たな課題を見いだしたりすることができる。	教育活動における自己課題を問い, 新たな課題を見いだして改善しようとするなど, 常に学び続け, 省察しようとする姿勢を持つことができる。
	2 教育的愛情	7 愛情	子供を甘やかすことと, 自立を促す指導の違いについて, 観察を通じて考察することができる。	子供のよさや可能性を認め, 個を尊重することの意義を理解している。	子供の可能性を認め, 子供のよさを見付けようとする共感的・受容的に接することができる。	子供を共感的・受容的に受け止めよさや成長に気付き, 子供との信頼関係を築こうとしている。	子供を共感的・受容的に受け止め, 子供のよさや成長に気付き, 信頼関係づくりに努めている。
		8 成長		子供から学ぶ意義を理解し, 子供と共に学ぶ姿勢を持つ。	日常の教育活動において, 子供の声に耳を傾け, 子供から学ぶとうする姿勢がある。	日常の教育活動において, 子供の声に耳を傾け, 子供から学ぶことができる。	日常の教育活動を通じて, 全ての子供から学び, 子供と共に成長しようとうする実践を積み重ねることができる。
Ⅱ 教員として求められる社会性や対人関係能力に関する事項	1 社会性	9 身だしなみ	服装や頭髪, 身だしなみを整え, 実習場面に応じて, 適切な対応ができる。	服装や頭髪, 身だしなみを整え, 特定の場面を設定しての話し方が適切にできる。	社会人としてふさわしい服装や頭髪など身だしなみを整えている。	身だしなみを整え, 時と場に応じた言動ができる。	常に身だしなみを整え, 時と場に応じて適切な言動をとることができる。
		10 マナー	観察参加実習への参加姿勢は誠実であり, 提出物の期日が厳守されている。	授業への参加姿勢は誠実であり, 提出物の期日が厳守されている。	挨拶・返事, 時間・期日の厳守, 教職員への接し方などの社会人としての基本的なマナーを理解し, 実践しようとする。	挨拶, 時間・期日の厳守, 教職員への接し方などの社会人としての基本的なマナーが概ね身に付いている。	挨拶, 時間・期日の厳守, 保護者, 地域住民, 他の教職員への接し方などの社会人としての基本的なマナーが十分に身に付いている。
		11 誠実	授業場面においては, 教師の指導内容や仲間の助言を真摯に受け止めることができる。	授業場面においては, 教師の指導内容や仲間の助言を真摯に受け止めることができる。	指導教員や他の教職員, 実習生からの指導・助言を受け止め, 教育活動に生かそうとする。	指導教員や他の教職員, 実習生からの指導・助言を真摯に受け止め, 教育活動に生かすことができる。	同僚からの指導・助言を真摯に受け止め, 主体的に考察して, 教育活動に適切に生かすことができる。

項目	中項目	小項目	教育実地研究Ⅰ(1年生)	教育実地研究Ⅱ(2年生)	教育実地研究Ⅲ,Ⅳ(3,4年生)		
			到達目標	到達目標	教育実習でめざす姿		めざす教員像
					First stage	Second stage	Third stage
	2 対人関係能力	12 協働力	グループでの話し合いでは、仲間の発言に耳を傾け、自分の意見を表出できる。	グループでの話し合いでは、仲間の意見に耳を傾け、自分の意見を表出できる。	指導教員や他の教職員、実習生と協力して、教育活動を推進しようとする。	協調性を持って教育活動を推進することができる。	協調性や柔軟性を持ち、学校全体を考えながら、同僚や職員とともに教育活動を的確に推進することができる。
Ⅲ 教員として求められる幼児子ども生徒理解や学級経営等に関する事項	1 子供理解	13 受容・公平	子供理解の具体的な方策を各学校においてつぶさに観察し、それぞれの特徴を検討することができる。	授業や学級経営等で、子供の実態を把握する意義とその方途を理解している。	子供と顔を合わせたり、一緒に遊んだりする等、親しみをもった態度で接しようとする。	休み時間や体験的な活動、課外活動等、多くの場で一人一人の子供と関わり、親しみのある態度で接することができる。	一人一人の子供と公平に関わりを持ち、話を聞いたり、気軽に話せる場や雰囲気をつくり出すことができる。
		14 把握・対応			子供の話を聞いて、思いや願い、心身の健康状態を捉えようとしている。	子供の言動をよく見て、思いや願い、健康状態や悩み等をとらえ、必要に応じて助言することができる。	子供の言動を基に様々な情報を把握し、他の教職員と連携しながら適切に対応することができる。
		15 多様性			インクルーシブ教育システムの理解に努め、子供の教育的ニーズや特性等の視点から子供を理解しようとしている。	インクルーシブ教育システムを理解し、子供の教育的ニーズや特性等を把握しながら(指導教官の指導の下)対応することができる。	インクルーシブ教育システムを理解し、子供の教育的ニーズや特性等を的確に把握し、子供の多様性を尊重した対応ができる。
	2 学級経営	16 朝の会・帰りの会	学級経営の実際を各学校においてつぶさに観察し、それぞれの特徴を検討することができる。	朝・帰りの会や給食・清掃指導、学級活動等、特定の場面を設定しての話し方を身に付けている。	健康観察や出席確認、予定や提出物の確認・連絡等、漏れ落ちなく朝・帰りの会で話すことができる。	日直による自主的な運営の指導しながら、朝・帰りの会を運営することができる。	一日の開始と終了の場が、子供の意欲や習慣につながるように、朝・帰りの会を適切に運営することができる。
		17 給食指導			給食の開始・終了時刻や身支度を意識して、子供とともに給食の準備や後片付けに取り組むことができる。	学校・学級の約束事に基づいて、手洗い・身支度の指示、安全管理や準備・後始末など、率先して給食指導をすることができる。	学校・学級の約束事を大切にし、給食指導や食育指導、アレルギーへの対応等を適切に行うことができる。
		18 清掃指導			清掃の開始・終了時刻や身支度を意識して、子供とともに清掃や後片付けに取り組んでいる。	学校・学級の約束事に基づいて、清掃用具の使い方や掃除・後始末の仕方等、手本を示しながら清掃指導をすることができる。	学校・学級の約束事の大切さを意識し、子供の様子に応じて協力的・能率的な清掃の仕方や反省会運営等、清掃指導を適切に行うことができる。
		19 学級活動			子供の生活態度や日常的な班・係活動等に関心を持ち、学級のよさや問題点、仲間関係を把握しようとする。	子供相互の関係が営まれる班・係活動や集会活動等を運営し、称賛・助言をすることができる。	学級目標に基づいて、問題解決に向けた話し合い活動を設定したり、学級のよさを伝えたりして、学級集団づくりに取り組むことができる。
		20 教材研究	各学校における教科指導の実際を観察し、各学校種における特徴を検討することができる。		学習指導要領や教科書、指導書等を利用して教材研究を行うことができる。	学習指導要領や教科書、指導書、先行実践、その他参考書、地域素材等を利用して、教材研究を行うことができる。	学習指導要領や教科書、先行実践、その他参考書、地域素材等を利用して、調査や練習等をして教材研究を行うことができる。
	1 構想	21 学習指導案		特定の条件下での学習指導案(略案)を作成できる。	形式に従って、学習指導案を作成することができる。	教材研究の成果を活用して、主体的・対話的で深い学びを意識した学習指導案を作成することができる。	主体的・対話的で深い学びを意識した、主張のある学習指導案を作成することができる。
		22 ねらい		本時の授業の「ねらい」を設定もって授業実践をする意義を理解している。	本時のねらいを明確に設定することができる。	単元の指導計画に基づき、本時のねらいを明確に設定することができる。	単元の指導計画や前時までの評価、子供の実態に基づき、本時のねらいを明確に設定することができる。
23 教材教具			教材・教具(実物・絵・写真・図・表・ワークシート等)の準備手順を理解している。	教材・教具(実物・絵・写真・図・表・ワークシート等)の準備やICT機器の利用を考慮することができる。	教材・教具(実物・絵・写真・図・表・ワークシート等)やICT機器を利用することができる。	教材・教具(実物・絵・写真・図・表・ワークシート等)やICT機器を効果的に利用することができる。	
24 評価			評価規準や評価基準を設定する手順と授業実践する意義を理解している。	評価規準や評価基準を設定することができる。	単元の指導計画やねらいに基づき、評価規準と評価基準を設定することができる。	単元の指導計画やねらいに基づき、評価規準と評価基準を設定するとともに、評価方法、評価場面を明確することができる。	

項目	中項目	小項目	教育実地研究Ⅰ(1年生)	教育実地研究Ⅱ(2年生)	教育実地研究Ⅲ,Ⅳ(3,4年生)		
			到達目標	到達目標	教育実習でめざす姿		めざす教員像
					First stage	Second stage	Third stage
2展開		25 姿勢視線	特定の課題について、話の内容を整理し、下を向かず話すことができる。	子供の前に姿勢よく立ち、子供の視線を受け止めて話すことができる。	子供の前に姿勢よく立ち、教室全体に視線を送り、子供と視線を合わせて話すことができる。	子供の前に姿勢よく立ち、教室の隅々まで視線を送り、子供の反応を見ながら話することができる。	
		26 音声表情	特定の課題について、話の内容にふさわしい表情や声の大きさや速さで話すことができる。	笑顔で、全体に伝わる声の大きさや速さで話することができる。	声の大きさや速さ、抑揚などを工夫したり、表情を意識したりして話することができる。	話す内容に応じて、話し方を使い分けながら、表情豊かに話することができる。	
		27 指導助言	特定の課題について、話す内容を精選し、指示・助言ができる。	分かりやすい言葉で端的に、指示・助言しようとする。	子供の反応を見ながら、適切な言葉で端的に指示・助言することができる。	子供の理解度やつまづきを捉え、状況を判断しながら、適切な言葉で指示・助言することができる。	
		28 発問	発問の意義と授業のねらいに迫る発問を構成する手順を理解している。	授業のねらいに即した分かりやすい発問しようとする。	授業のねらいや展開に即した課題に基づいて、思考を促す問いを区別しながら発問することができる。	授業のねらいや展開に即した課題に基づいて、発問を使い分けることができる。	
		29 指名	授業中の意図的な指名の意義と適切な指名の方途を理解している。	多くの子供が発言できるように、指名しようとする。	学習の目的に応じて、意図的な指名をすることができる。	個の発言と、それに対する反応やつぶやきをとらえながら、子供の様子に応じた意図的な指名をすることができる。	
		30 応答	子供の発言を受容的に受け止める方法を理解している。	発言を聞き流さず、あいづち・うなずき等の受け止めをしようとする。	発言を称賛し、的確に受け止めて、整理したり、質問に的確に答えたりすることができる。	発言を称賛し、的確に受け止めるだけでなく、子供の表情や様子からも子供の要求や気持ちを受け止め、授業を柔軟に展開することができる。	
		31 板書	特定の条件下で、指定された文章を的確に板書することができる。	文字の筆順や既習漢字、大きさを意識しながら、丁寧に板書しようとする。	学習課題や授業の流れが、子供に読み取れる、分かりやすい板書表現をすることができる。	板書計画を立て、授業の流れが、子供に読み取れる板書を構造的に作成することができる。	
		32 指導法	指導法の意義を理解し、幾つかの学習指導法の手順を身に付けている。	中心となる指導方法を持って、授業に臨もうとする。	授業のねらいに基づき、子供の学習意欲を喚起する指導方法で授業をすることができる。	授業のねらいに基づいた指導法を用いて、子供の学習意欲や思考を促す授業をすることができる。	
		33 学習形態	授業のねらいとのかかわりで、最も適切な学習指導法を選択する意義を理解している。	授業の展開計画に基づいて、学習形態(一斉・グループ・個別)に配慮しようとする。	授業のねらいや展開計画と関係づけながら、学習形態(一斉・グループ・個別)を工夫することができる。	学びが深まるよう、効果的な学習形態(一斉・グループ・個別)や学習方法(フレームワーク・演習等)を選択して、授業をすることができる。	
		3評価		34 机間指導	机間巡視をする意義とその方法を理解している。	授業中、適宜机間指導をすることができる。	授業中、目的を持って机間指導をすることができる。
35 授業展開	基本的な授業の構成方法を理解している。			導入・展開・終末の時間配分を考慮しながら、授業を展開しようとする。	予想外の反応に対して、予定変更の必要性を意識しながら授業を展開することができる。	予想外の反応に対して、授業のねらいとの関係から、戻る・立ち止まる・進む等の授業展開を判断することができる。	
36 授業評価	評価基準の意義と評価方法を理解している。			評価基準に基づいて、自己の授業を評価しようとする。	評価基準に基づいて、自己の授業におけるねらいの達成度を把握することができる。	評価基準やねらいの達成度等から、自己の授業の成果と課題を把握し、次時に生かすことができる。	